

## 今後の対応方針

### 1. 基本計画への対応(案)

#### (1)道の駅基本機能への対応方針

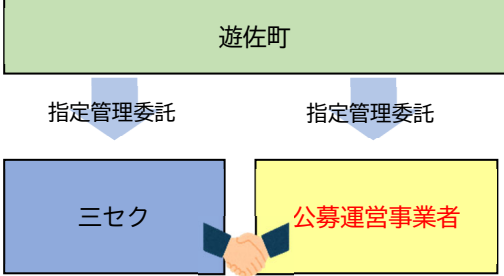
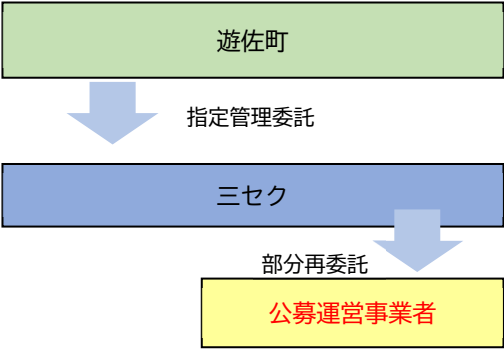
	計画への反映事項	求める性能
直売所・ 特産品販 売所	<ul style="list-style-type: none"> <li>直売所・特産品販売所は隣接した配置とし、時期・売り方によって柔軟に変更できるようにする。</li> <li>バックヤードは直売所・特産品販売所の共用とする。</li> <li>基準の面積は、売り場 420 m<sup>2</sup> (直売 300 m<sup>2</sup>・物販 120 m<sup>2</sup>)、バックヤード 170 m<sup>2</sup>を基本とする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>遊佐町の特産品の購買・新規開発に資すること。</li> <li>環鳥海・庄内エリアの特産品を様々な演出で販売すること。</li> <li>地域の旬な食材を、地元の方が気軽に買いに来れること。</li> <li>冷蔵・冷凍商品をストックできる容量のある設備の確保。</li> </ul>
食事ス ペース	<ul style="list-style-type: none"> <li>運営事業者のターゲット・コンセプト設定に即した施設計画</li> <li>モデルとして、フードコート・食堂・ファストフード計 650 m<sup>2</sup>としているが、コンセプトに合わせて変更可能とする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>この地域ならではの食事が楽しめること。</li> <li>手早く済ませたいニーズにも対応すること。</li> </ul> <p>※例：おにぎりなど</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>地産地消を加速するソフトコンテンツであること。</li> </ul>
道路休憩 施設	<ul style="list-style-type: none"> <li>24h トイレ（女性用）は、きれいな施設とする。（※豪華ではなく清潔）</li> <li>情報施設は、遊佐町の様々な情報を提供するためコンシェルジュ機能を設置する。（有人）</li> <li>ジオパークの活かし方・方針については事務局にて整理する。</li> <li>EV・非常時周辺停電時の代替給電機能の設置方針については事務局にて整理する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>24h トイレは清掃維持管理しやすいこと。</li> <li>マナー化しない、活きた旬の情報を掲示すること。</li> <li>遊佐町内の様々なアクティビティへの窓口として機能すること</li> </ul>

(2)その他提案機能への対応方針(案)

提案機能	対応方針
①お土産品以外の物販	・施設内テナントとして設置可能とする。
②ワークスペース・配信スペース	・オープンスペース（会議室）として面積を 85 m <sup>2</sup> 程度確保する。 ・運用は運営事業者と協議のうえ決定する。
③オートキャンプスペース、キャンピングカースペース	・「鳥海山のふもとのまち」のコンセプトのとおり、道の駅の拠点性を高めるのではなく町内に機能分散を図るという観点から、オートキャンプスペースは本事業地には設置しない。
④サウナ施設、シャワー施設	・「鳥海山のふもとのまち」のコンセプトのとおり、道の駅の拠点性を高めるのではなく町内に機能分散を図るという観点から、温浴施設機能は本事業地には設置しない。あぼん西浜の利用を誘導する。
⑤コンビニより少し大きくて便利な施設	・「鳥海山のふもとのまち」のコンセプトのとおり、道の駅の拠点性を高めるのではなく町内に機能分散を図るという観点から、町内の既存店舗の利用を誘導する。
⑥ガソリンスタンド	・「鳥海山のふもとのまち」のコンセプトのとおり、道の駅の拠点性を高めるのではなく町内に機能分散を図るという観点から、町内の既存店舗の利用を誘導する。
⑦ラジオブース（ミニ FM）	・館内の LIVE 情報や、町内の旬な情報など、小さなラジオ局として情報発信する機能であり、観光情報施設として設備設置を検討する。
⑧キッチンカー設置スペース	・観光オンシーズンにおける集客力向上のための仕掛けとして、外構・広場などに設置を検討する。（駐車スペース・電源の確保）
⑨地域住民の移動手段としての巡回バス	・庁内において今後検討する。

## 2. 事業手法・スキームへの対応

アンケート結果、WGでの意見交換より、運営事業者の体制イメージのパターンは、概ね以下の2つに絞られる。

	②別個契約パターン	③運営の一部再委託パターン
概要	<p>・道の駅の各業務について役割分担を明確にしたうえで、それぞれの持ち分の中で事業を実施する。三セクとの連携による一体的な賑わい形成を目指す。</p>  <p>公募事業者の役割は幅広い</p>	<p>・道の駅の業務の一部について、三セクより再委託という形で業務を受託し、主従関係の中で三セクとの連携による一体的な賑わい形成を目指す。</p>  <p>公募事業者の役割は限定的</p>
メリット	<ul style="list-style-type: none"> <li>・三セクの意向を尊重しつつ、公募事業者の主体的な取り組みによる賑わい創出も期待できる。</li> <li>・責任の所在を明確に分けることができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・三セクの意向を最大限尊重した事業運営を図ることが可能となる。</li> <li>・主体は三セクとなるため、責任の所在がより明確となる。</li> </ul>
課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・円滑な連携を実現するための仕組み・工夫が必要（リーダーの設置など）</li> <li>・公募事業者の意見・コンセプト・ブランド訴求に素直に合わせていくなど、双方の歩み寄りが必要。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・三セクの主体的な取り組みに拠るため、「新たな・自由な発想に基づくコンセプト設定」など、既存事業の延長ではない進化を実現するための仕掛けが必要。</li> </ul>
成り手のイメージ	⇒例えば、独自のブランド・ノウハウを有し、主体的で独立した事業運営が可能であり、全国的に話題性を呼び込むことができるなど、相乗効果が期待できる事業者（メーカー・ブランド等）	⇒例えば、三セクの考えをベースに様々なアドバイスをするなど、事業計画を組み立て支援ができる、独自の領域で取り組みを実行できる事業者（小売・事業コンサル等）

### 3. ヒアリング調査の実施

アンケート回答結果をもとに、参画意向を示していただいた企業を対象にヒアリングを実施。事業参画するにあたっての課題や、条件などを聞き出す。

実施は4月～5月中旬を予定。

#### ■本事業への関心(参加意向)について

	事業者意向調査 全体傾向				無回答除く合計
	非常に関心がある(ぜひ参加したい)	関心がある(条件が整えば参加したい)	どちらともいえない	関心がない(参加の予定はない)	
①道の駅の事業運営に携わるパートナー企業として参加	4社	4社	8社	1社	17
②テナント事業者として参加	5社	0社	5社	6社	16
③事業コンサルタントとして参加	3社	2社	4社	7社	16
④設計・建設事業者として参加	1社	3社	3社	8社	15

現時点では、ヒアリング調査は13社を予定(案)

追加で、地元建設会社へのヒアリングを想定